

保健物理・環境科学部会長（第4期）退任にあたり

飯田孝夫(名古屋大学 大学院工学研究科)

第4期（2006・2007年度）の保健物理・環境科学部会長を退任するに当たり、一言お礼を申し上げます。保健物理・環境科学部会の立ち上げと部会の基礎を確立された第1・2期の小佐古元部会長や、それを発展させ部会活動を活性化された第3期の内田前部会長の後を引き継いで、占部逸正（福山大学）、本間俊充（日本原子力開発機構）両副部会長および運営委員の方々のサポート体制で2006年春にスタートしました。

原子力学会における部会制度による活動も定常化し、保健物理・環境科学部会の会員数も現在は200名を越えています。第4期スタート時点で、部会が設立されて6年経過していたために、もう一段上にこの部会を活性化するために、企画行事等を通して、保健物理・環境科学部会が魅力的であるような部会活動を行うことを目標としました。部会運営においては、事務局に過大な負担が掛からないように、運営委員の方々にも部会運営に加わっていただきました。

2006年秋の大会では保健物理・環境科学部会の企画セッションとして「炭素14の環境中移行研究の現状と今後の課題」を開催しました。この企画行事の後、部会内に「炭素14環境中移行研究連絡会」を組織し、現在も活動を継続しています。2007年春の年会では、部会企画セッションとして「自然放射線被ばくに関する放射線防護の動向」を開催しました。この春の年会では、委員会合同セッションで「保健物理・環境科学部会の活動」を報告しています。2007年秋の大会では、核融合工学部会との合同企画セッションとして「核融合実験と放射線安全」を開催しました。出席者も多く、それぞれ重要な問題が提起され、非常に有意義な場を提供できたと思います。2008年春の年会では、部会企画セッションとして「再処理施設の環境影響評価」を開催しました。これらの企画行事は企画担当の運営委員を中心に、運営委員の方々の尽力で企画されました。今後も、いろいろな部会との交流の場としての合同企画セッション等が活発に実行されることを期待しています。

第5期は、米原部会長（放射線医学総合研究所）を中心として、占部逸正、外川織彦（日本原子力開発機構）両副部会長とともに、新しい運営委員会体制の下で、この保健物理・環境科学部会のさらなる発展を期待しています。

2年前の就任挨拶の時にも述べましたように、保健物理・環境科学部会を発展させるためには、部会員の皆様の研究発表会への積極的な参加が必要です。学会の会期中に開催する保健物理・環境科学部会の総会へも参加して、企画行事等の提案を今後もお願いします。大学や研究所や事業所等で行っている研究

活動の成果を学会で発表し、討論することが新しい研究の種を生み出す可能性を有しています。それには部会員それぞれが、新しい意識をもって研究等の活動に取り組み、部会活動を活性化していく必要があります。保健物理・環境科学部会を魅力のある部会としていくために、今後も部会員の皆様のたいなるご協力を期待しています。

最後に、この2年間、部会長を支えていただきました占部逸正および本間俊充両副部長、宮崎振一郎会計監査、そして運営委員の皆様、特に高橋知之、飯本武志両委員に感謝を申し上げます。